

3. 学習について

1. 学習に対する心構え

目標検定の取得を目指した各科カリキュラムに従って、短期間に豊富な知識と各種技能を修得しましょう。

学習の基本は徹底的な反復学習であるので、授業中に完全に理解するよう努めるとともに放課後の実習室の利用や家庭での復習を心がけましょう。

立派なスペシャリストを目指すという目標を常に念頭において学習しましょう。

2. 授業外の学習

① 検定対策授業

主要検定に関しては、各科カリキュラムにおいて、検定に合わせた補習授業を行うので必ず受講してください。

② 家庭学習

a. 予習・復習

授業密度が濃いので予習、復習を欠かさないでください。

b. ホームワーク

課題は必ず指定された日までに提出してください。

③ PC室の利用

PC室は、始業前・昼休み・放課後などの利用も認められているので、担任の許可を得た上で積極的に利用してください。

3. 成績評価

① 成績評価は原則として各科目毎に評価します。

(注) 同一名称であっても、末尾にⅠ・Ⅱ／A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱います。

② 成績評価は、検定取得状況、授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、修得試験等の資料によってなされ、本人の努力に関しても考慮します。

③ 算出法

- a. 成績評価はA、B、C、Dの4段階とします。
- b. 検定関連科目は、検定結果を中心に評価することもあります。
- c. 検定のない科目は試験・レポート等で評価します。

④ 評価基準

- a. 検定による評価を行う科目は、検定のたびにそれぞれ評価基準を決定します。
- b. 検定結果によらない科目では、おおむね以下の規準に従って評価します。
 - A：科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく優秀な者
 - B：科目に対する理解及び日常の授業態度が良好な者
 - C：科目に対する理解及び日常の授業態度がやや劣る者
 - D：(1)科目に対する理解が著しく劣る者
 - (2)出席率が80%未満の者
 - (3)繰り返し私語、居眠り、無届欠席を行うなど日常の授業態度が著しく劣る者

⑤ 考査資格

科目終了時に、当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象となりません。従って成績いかにかわらず、D評価となり追試を受験することになります。

⑥ 追試・認定試験

- a. D評価の者は追試を行い学習の機会を与える。
- b. 追試験に合格しない者は認定試験を受験する。認定試験に合格できなかった科目のある場合は卒業・進級を認めない。
- c. 追試験・認定試験後の合格者は原則としてC評価とする。
- d. 追試験及び認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入する。

⑦ 成績表

各期末に検定結果・学習理解度ならびに態度に応じて評価、作成し、保護者宛に郵送します。

4. 各試験に対する注意事項

- a. 試験は、本分に従い厳正に受験しなければなりません。もし不正の行為があれば嚴重な処分を受けます。
- b. 携帯電話等の機能を使用した場合は、不正の行為とみなします。
- c. 指定された席に正しく着席し、所持品をすべて整頓して机脚の脇下に置くものとします。その他の箇所に一切物を置くことを禁じます。
- d. 答案は試験場を退出する時には必ず提出してください。答案用紙の室外持出し、並びにそれらによる試験放棄は厳禁とします。
- e. 受験票としては、学生証をもって代えます。これを試験の毎時間携帯し写真のある方を上にして机の右端に置き、監督教師からの写真照合を受けます。この受験票としての学生証のない者は退場を命ずることがあります。
- f. 正当な理由なく受験できなかった者は不合格とします。ただし、病気、その他のやむを得ない事由で受験できなかった者に対しては再試験を行うことがあります。この場合、当該科目の試験終了一週間以内に医師の診断書又は事由書等の証明書を添付した試験欠席届を提出してください。

5. 卒業基準

- a. 出席率90%以上（総出席時間の割合）
- b. 成績評価がすべてC以上
- c. 卒業基準検定の取得
 - * bまたはcを充たせない者は同等レベルの認定試験を受験し合格しなければなりません。なお、認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入します。
- d. カレッジリーグ・フィールドワーク・プログラム（C. F. P）の規定点数以上の取得

6. 進級基準

- a. 前学年までの出席率90%以上（総出席時間の割合）
- b. 成績評価がすべてC以上
- c. 検定取得状況（1年次取得検定）
 - * bを充たせない者は同等レベルの認定試験を受験し合格しなければなりません。なお、認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入します。
- d. カレッジリーグ・フィールドワーク・プログラム（C. F. P）の規定点数以上の取得）

7. 編入・転科

① 編入

卒業見込みの者は選考（原則として書類選考）により編入できることもあります。

② 転科

進級見込みの者は選考（原則として書類選考）により転科できることもあります。

8. 休学・退学・除籍・停学

① 休学

- a. 病気その他の事由により引き続き30日以上就学することができない者は、休学願（病気の場合は診断書添付）を提出し、許可をうけて休学することができます。
- b. 休学の事由が終わったとき、願い出て復学することができます。

② 退学

- a. 止むを得ない事由により就学することができない者は、その事由を記した退学願を担任に提出し、学校長の許可を受けなければなりません。
- b. また、下記の事項に該当する者には退学を命ずることがあります。
 - 素行不良で改善の見込みがないと認められる者。
 - 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。
 - 正当な理由がなくて出席が常でない者。
 - 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者。

③ 除籍

- 学生で、下記の事項に該当する者は学校長が除籍します。
- 死亡の届出のあった者。
 - 行方不明の届出のあった者。
 - 授業料等の納付の義務を怠り督促しても、なお、納付しない者。

④ 停学

- a. 自動車、バイクにより通学した者。
- b. その他学校が定めている諸規則に反した場合、学校長が停学を言い渡す場合があります。
 - 出席停止
 - 授業料等を三箇月以上滞納した場合は出席停止とします。

9. 表彰

a. 各期末表彰

その期の成績及び行動において、他の模範となり得る評価を受けた者を選び表彰します。

- ① 最優秀賞…クラス内で最優秀なる者
- ② 優秀賞…クラス内で優秀なる者
- ③ クラス賞…クラス内で重要な役割分担等を行い、貢献大なる者

b. 卒業時表彰

① 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団表彰

在籍期間を通して成績、検定取得状況及び行動面等において専門学校生の模範となる最優秀者を表彰します。

② 全国経理教育協会表彰

簿記経理及びこれに準ずる課程の中から特に優秀な学生を協会表彰します。また簿記の科目に関して最優秀の学生を高瀬賞として表彰します。

③ 医療秘書教育全国協議会表彰

在籍期間を通して医療秘書分野において成績優秀な学生を協会表彰します。

④ 奨励賞

在籍中に成績最優秀者であった者を表彰します。原則として各科1名とします。

⑤ 皆勤賞

在籍期間を通して無欠課の者を表彰します。ただし中途就職者は対象外です。

⑥ 精勤賞

中途就職したことにより皆勤賞の対象者から外れた者で、就職先においても皆勤だった者を表彰します。